

与那国島から得られた沖縄県初記録のキオビイズハナダイ

著者	藤原 恭司, 宮本 圭, 本村 浩之
雑誌名	Nature of Kagoshima
巻	45
ページ	255-257
発行年	2019-05-31
URL	http://hdl.handle.net/10232/00031328

与那国島から得られた沖縄県初記録のキオビイズハナダイ

藤原恭司¹・宮本 圭²・本村浩之³¹ 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学大学院水産学研究科² 〒 905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川 888 沖縄美ら島財団総合研究センター³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

ハタ科イズハナダイ属 *Plectranthias* Bleeker 1873 は三大洋に分布し、一部の種を除き、深場の岩礁域に生息する小型魚類である (Randall, 1980). 日本産ハタ科魚類をまとめた瀬能 (2013) は日本産本属魚類として 9 種 (ミズホハナダイ *P. elongatus* Wu, Randall and Chen 2011 は注釈のみ) を認めた. しかし、その後多くの日本初記録種や新種が記載され、現在、瀬能 (2013) に 5 種 (トビイシハナダイ *P. fourmanoiri* Randall 1980, アヤマイズハナダイ *P. maekawa* Wada, Senou and Motomura 2018, キオビイズハナダイ *P. sheni* Chen and Shao 2002, ヒノマルハナダイ *P. takasei* Gill, Tea and Senou 2016, ユズノミハナダイ *P. xanthomaculatus* Wu, Randall and Chen 2011) を加えた 14 種が日本国内から記録されている (Gill et al. 2016; 藤原ほか, 2017; 岡本・本村, 2017; Tashiro et al. 2017; Wada et al. 2018).

本属魚類の分類学的研究の過程で、沖縄県与那国島から得られた 1 個体のイズハナダイ属魚類が確認された. その後、本標本は鱗条数や鱗数、尾鰭の形態、色彩によってキオビイズハナダイに同定された. 本種は日本国内ではこれまで伊豆大島、草垣群島、および大隅諸島から奄美大島にか

けてのみ記録されている (藤原ほか, 2017; 桜井, 2018, 2019). したがって、本研究で確認した標本はキオビイズハナダイの沖縄県からの初記録となるため、ここに報告する.

■ 材料と方法

計数・計測方法は Randall (1980) にしたがった. 標準体長は体長または SL と表記した. 計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った. 本報告で用いた標本は沖縄県産の 1 標本 [OCF-P3662, 体長 86.5 mm, 与那国島南方 (24° 17'22"N, 123°02'19"E), 水深 254 m, 釣り, 2017 年 3 月 24 日採集, 沖縄美ら海水族館で 27 日間飼育された後、死亡個体を標本処理] で、沖縄美ら島財団総合研究センター (OCF) に保管されている.

■ 結果と考察

沖縄県与那国島産の 1 標本 (Fig. 1) は、背鰭が 10 棘 17 軟条、臀鰭が 3 棘 7 軟条、胸鰭が 13 軟条、尾鰭が截形であること、および主鰓蓋骨に 3 本の棘をもつことなどの特徴から Randall (1980) が定義した *Plectranthias* 属に同定された. さらに、上述の特徴に加え、胸鰭が最上軟条を除き、全て分枝、側線上方横列鱗数が 4.5、頬鱗列数が 5、総鰓耙数が 17、背鰭棘第 3 棘が最長、背鰭基底に沿って並ぶ斑が側線上部に限られ、その下縁は側線を大きく越えない、体側中央部の斑が帯状に並び、とくに後方では癒合した斑が連続した縦帯を形成する、および固定後でも体側の斑が明瞭に残ることの特徴が Chen and Shao (2002) と藤原ほか (2017) が示したキオビイズハナダイ *Plectranthias sheni* の特徴によく一致した. なお、

Fujiwara, K., K. Miyamoto and H. Motomura. 2019. First Okinawa record of *Plectranthias sheni* (Serranidae) from Yonaguni-jima island in the Yaeyama Islands, Japan. *Nature of Kagoshima* 45: 255–257.

✉ KF: Graduate School of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: kyojifujiwara627@yahoo.co.jp).

Published online: 25 March 2019

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-045.pdf



Fig. 1. Fresh specimen of *Plectranthias sheni* (OCF-P 3662, 86.5 mm SL) from Yonaguni-jima island, Okinawa Prefecture, Japan. Photograph inverted horizontally.

与那国島産標本の側線有孔鱗数は31で、これまでの報告(32–33)(Chen and Shao, 2002; 藤原ほか, 2017)と比べて僅かに少ないが、同程度の種内変異が同属他種で確認されている(例えば、イズハナダイ *P. kamii* Randall, 1980)(藤原ほか, 2017)ことから、これはキオビイズハナダイの種内変異であると考えられる。

本標本の計数・計測形質は以下のとおりである。背鰭条数 X, 17; 臀鰭条数 III, 7; 胸鰭条数 13; 側線有孔鱗数 31; 側線上方横列鱗数 4.5; 側線下方横列鱗数 12; 頬鱗列数 5; 鰓耙数 5 + 12。体各部測定値の標準体長に対する割合(%) 体高 34.8; 体幅 18.7; 頭長 43.7; 吻長 10.6; 眼径 11.9; 両眼間隔 5.1; 上顎長 21.3; 尾柄長 12.3; 尾柄高 19.5; 背鰭前長 40.0; 臀鰭前長 70.6; 腹鰭前長 38.0; 背鰭基底長 52.9; 臀鰭基底長 15.4; 尾鰭長 22.4; 胸鰭長 34.5; 腹鰭長 22.0; 背鰭第1棘長 5.4; 背鰭第2棘長 9.4; 背鰭第3棘長 18.7; 背鰭第4棘長 16.0; 背鰭第10棘長 6.8; 背鰭最長軟条長 16.3; 臀鰭第1棘長 7.6; 臀鰭第2棘長 16.6; 臀鰭第3棘長 13.2; 臀鰭最長軟条長 20.2; 腹鰭棘長 13.6。

キオビイズハナダイは藤原ほか(2017)によって日本から初めて報告され、彼らは本種の国内に

おける記録を伊豆諸島伊豆大島、草垣群島、大隅諸島黒島、トカラ列島中之島、中之島東方の屋久新曾根(海底台地)、および奄美大島とした(藤原ほか, 2017)。その後、桜井(2018, 2019)は藤原ほか(2017)が報告した奄美産の本種のカラー写真を示した。これら以外に本種の記録はなく、与那国島の魚類相を包括的にまとめた Koeda et al. (2016)にも本種は掲載されていない。したがって、本研究で調査した与那国島産の1標本は沖縄県からのキオビイズハナダイの初記録となる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり沖縄県海水族館スタッフの皆さまには記載個体の採集、飼育、および情報提供にご協力して頂いた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同館魚類分類学研究室の皆さまには標本の調査にご協力して頂いた。これらの方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027,

26450265), JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性・島嶼プロジェクト)学長裁量経費の援助を受けた。

引用文献

- Chen, J.-P. and K.-T. Shao. 2002. *Plectranthias sheni*, a new species and *P. kamii*, a new record of anthiine fishes (Perciformes: Serranidae) from Taiwan. *Zoological Studies*, 41: 63–68.
- 藤原恭司・田代郷国・高山真由美・瀬能 宏・本村浩之. 2017. ハタ科イブハナダイ属魚類 *Plectranthias sheni* の日本からの記録と適用すべき標準和名の検討. *魚類学雑誌*, 64: 121–129.
- Gill, A. C., Y.-K. Tea and H. Senou. 2016. *Plectranthias takasei*, new species of anthiadine fish from southern Japan (Teleostei: Serranidae). *Zootaxa*, 4205: 349–356.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. 119 pp.
- 岡本 誠・本村浩之. 2017. 奄美群島西方から得られた日本初記録のハナダイ亜科魚類 *Plectranthias xanthomaculatus* ユズノミハナダイ(新称). *日本生物地理学会会報*, 71: 47–52.
- Randall, J. E. 1980. Revision of the fish genus *Plectranthias* (Serranidae: Anthiinae) with descriptions of 13 new species. *Micronesica*, 16: 101–187.
- 桜井 雄. 2018. ハタ科 Serranidae (ハナダイ亜科 Anthiadi-nae). Pp. 95–100. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編). 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市, 国立科学博物館, つくば市.
- 桜井 雄. 2019. ハタ科 Serranidae (ハナダイ亜科 Anthiadi-nae). Pp. 98–103. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編). 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科. Pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Tashiro, S. and H. Motomura. 2017. First Japanese record of the Barred Perchlet, *Plectranthias fourmanoiri* (Perciformes: Serranidae), from the Ryukyu Islands. *Species Diversity*, 22: 81–85.
- Wada, H., H. Senou and H. Motomura. 2018. *Plectranthias maekawa*, a new species of perchlet from the Tokara Islands, Kagoshima, Japan with a review of Japanese records of *P. wheeleri* (Serranidae: Anthiadiinae). *Ichthyological Research*, doi 10.1007/s10228-018-0674-z